

別紙資料 4

たゆうづかこふん
太夫塚古墳

<概要>

面積 60.0 m² (追加指定面積)
 1092.0 m² (既指定面積)
 1152.0 m² (総指定面積)

太夫塚古墳は、矢作川左岸の標高約 15m の段丘縁辺部に立地する、三河地方の中期古墳としては大型な円墳である。矢作川流域は、愛知県下において重要な古墳の分布する地域であり、この太夫塚古墳と矢作川をへだてて対岸の碧海台地縁辺には安城市の国史跡・二子古墳（前方後方墳）、同・姫小川古墳(前方後円墳)が立地しており、それらの古墳との関連において太夫塚古墳の重要性が想定される。

本古墳は、円墳として、昭和 50 年に県指定史跡に指定されている。その後の岡崎市教育委員会調査により、周溝が確認されたことから墳丘裾が明確になった。

古墳の現状は、墳丘北側は道路により、北西側の墳丘裾は土取りにより、また南東側の墳丘裾は家屋建築の際により一部削平を受けている。しかし、その他では墳丘裾が確認でき、墳丘の裾から頂部にいたる姿形の歪みも少なく、円墳の景観は良好に保たれている。

今回追加指定を行おうとする土地は既指定地に直接隣接しており、この土地は周溝内の墳丘の一部であることが明らかである。この土地の追加指定を行うことにより、太夫塚古墳のより一層の保護を図ることができると考える。

たゆうづかこふん
太夫塚古墳



太夫塚古墳全景（北西から）写真1



追加指定地（南から）写真2
（岡崎市教育委員会提供）